

初めて狂言を鑑賞する方にも分かりやすく解説!

「三宅狂言会 狂言鑑賞会」



「三宅狂言会」は、三宅右近(重要無形文化財保持者)を中心に、“狂言をより多くの方々に知ってもらいたい”と、年間100か所に及ぶ公演を行っている和泉流の狂言会です。工夫を凝らした解説や独自の演出を取り入れた公演をお楽しみください。

日時▼2月25日(土) 午後2時開演(午後1時30分開場)

場所▼東海文化センター

内容▼▽狂言解説「盆山」▽狂言「萩大名」▽狂言ワークショップ ▽狂言「棒縛」

入場料▼3,000円/人(全席自由) ※未就学児の入場はできません。
申し込み・問い合わせ▼東海文化センター(☎282-8511)窓口またはプレイガイドで入場券を販売しています。

ステージ上で、狂言の所作や発声も体験できるワークショップがあります!

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

郷医 小宅尚安

舟石川1区自治会集会所裏にある内宿長松院の末寺・長徳寺の跡地には墓地があり、その一角に「遊び人の墓」との伝承を持つ郷医(村に住んでいる医者)の墓があります。横28センチメートル、高さ82センチメートルの墓には四面にびっしり刻字が見られます。

表面には「萬獄無根處(處) 土小宅氏之墓」とあり、左側面には、出身は清原氏(『日本書紀』の編さん者・舎人親王の孫より起こる家)で、下野(栃木県益子町)の出身とあります。墓の主は小宅尚安字伯厚といい、祖父・時春、父・高矩三左衛門は共に水戸藩に仕えました。その子・尚安は、読書好きでしたが士官を好まず、医者となり、舟石川村(舟石川)に52年間住み続けました。

右側面には、「五月雨や如來者我尔傘壹本 吟袋」と俳句が刻まれています。このころは、松尾芭蕉(1644〜1694年)が俳句にわび・さび・細み等を加味し、文芸性を高めた俳句「蕉風」の流れのある時



萬獄無根處土小宅氏之墓

旧東海村民俗調査の会代表

佐藤 美智子

代でした。尚安は自分の家を「芭蕉翁之俳諧歌所、居名夢住庵(庵)、又稱(稱)桃花園主人吟袋」といい、医業の傍ら仲間(門人)たちと作句を楽しんでいました。

裏面には、晩年には身を清めて肉を絶ち「妙法蓮華經・八卷二十八品」の大部の経典を2部も書き写し、かつ夢住庵の住人らしく、世間を気にせず、のんびりと心安らかに、欲もなく暮らしたとあります。「宝曆八(一七五八)年 戊寅五月二日没(没)享年七十四」とあります。医者というより歌人としての伝承が強かったため、遊び人の墓といわれたのでしよう。

この碑文は水戸藩の学者で彰考館(大日本史の編さん所)の総裁名越南溪(溪)により選文されています。父親との関係で書いてもらったのでしょうか。碑には「明和六(一七六九)年 己丑三月 門人等(等)建」とあり、死後11年後に造立されました。小さな碑文は私たちに過去の出来事をうかがわせてくれているようです。

ぜひご利用ください!



村公式アプリ
「こちら東海村」



村公式子育て応援アプリ
「のびのび子育て帳」



村公式フェイスブック
「東海村ご当地レポーター」



村公式ツイッター
「東海村」